

統 計

昭和40年を中心とした人口再生産力に関する主要指標

山 口 喜 一

ここに掲げるわが国全国についての人口再生産力に関する主要指標、すなわち、標準化人口動態率（標準人口：昭和5年全国）、女子の人口再生産率、ならびに女子の安定人口諸指標の算定は、資料課において毎年行なわれており、すでに、昭和35年以前の数値はまとめて「人口問題研究所研究資料」に¹⁾、昭和36年と37年、および38年は本機関誌第94号および96号に発表し²⁾、さらに昭和39年を中心とした算定数値に基づいた解説資料を「研究資料」として刊行している³⁾。

今回、これら指標の昭和40年についての算定を終えたので⁴⁾、ここに簡単な解説とともにその結果を発表するが、時系列的比較の便宜のために、大正14年以降算定各年次の主要算定数字について摘要表を作成、掲載した（第1～3表）。なお、最新の昭和40年については単に算定の最終結果だけでなく、計算の基礎となった数字ならびに計算過程の主要な数字、たとえば年齢別の人口、出生・死亡数、出生・死亡率、生残数なども掲載しておいた（第4表以降）。

掲載した諸指標については、それ自体の概念および算定方法についての専門的説明を必要とするが、ここには、限られた紙面で詳細を記しえないので省略した。それらについては、注記の各資料を参照していただきたい。なお、最後にお断わりしておかねばならないことは、従来発表してきた昭和35年以降の各指標は2種の算定結果を示してきた。すなわち、計算の基礎人口としては総理府統計局の国勢調査およびそれに基づく推計人口を用いたものと、人口問題研究所の推計人口を用いて算定したものとであった⁵⁾。これは誤解を招きやすいので、今後は総理府統計局発表の人口に基づく算定結果のみを掲げてゆくこととした。

昭和40年の算定結果について

昭和40年の算定結果について、まず標準化人口動態率を見ると（第1表）、昭和40年の出生率は前年の14.80‰より0.85‰（増加率にして5.74%）の上昇、死亡率も5.91‰より0.06‰（増加率1.02%）の上昇を示した。これは普通人口動態率の場合でも同様な動きであるが、出生率では標準化率の方が若干増加が大きく（普通率の増加率5.10%）、この1年間における人口構造の変化が見かけの出生率をそれだけ引き下げる方向に働いたことを意味する。死亡率の方では標準化率の方が上昇度が鈍く（普通率の増加率2.89%）人口構造の変動要因を除外すれば、死亡率そのものは見かけほどには増加していないことになる。

自然増加率は、出生率・死亡率の動きを反映して標準化・普通いずれも昭和39～40年に、その前の1年間よりさらに格段に増加した。9.68‰という標準化自然増加率の地位は、昭和28年と29年の中間にあり、最近にない高率と言える。これは、5%強という出生増加の反映であり、昭和40年の標準化率15.65‰という出生

1) 厚生省人口問題研究所（小林和正・山口喜一・山本道子担当）、『わが国の年次別標準化人口動態率 大正9年～昭和35年』（研究資料第155号）、昭和38年8月。

厚生省人口問題研究所（小林和正・山口喜一・金子武治担当）、『わが国の年次別人口再生産率 大正14年～昭和35年』（研究資料第157号）、昭和38年12月。

厚生省人口問題研究所（小林和正・山口喜一・山本道子・金子武治担当）、『わが国の年次別安定人口動態率および年齢構造 大正14年～昭和35年』（研究資料第161号）、昭和39年11月。

この3部作によって、わが国公表の人口動態統計および人口動態統計から直接的に取りうるかぎりの戦前・戦後の年次に関する人口動態の基本的な比較資料が整えられたわけである。昭和36年以降の年次については、次掲の注2)3)のごとく、本『人口問題研究』その他に逐年的に発表していくが、標準化動態率、再生産率ならびに安定人口諸指標を一括し、5年次分ごとにまとめて「研究資料」とする予定である。

2) 山口喜一、「人口再生産率に関する算定結果：昭和36、37年を中心とする」『人口問題研究』第94号、51～61ページ、昭和40年4月。

山口喜一、「昭和38年を中心とするわが国の人口再生産率」『人口問題研究』第96号、36～48ページ、昭和40年10月。

3) 山口喜一、『わが国人口再生産力の動向』（人口問題研究所研究資料第172号）、昭和41年12月。

4) 算定に当たっては、資料課の金子武治技官の協力を得た。

5) そのことについての詳細は、前掲注1)2)の各資料、とくに『人口問題研究』第96号の45～47ページを参照されたい。

率は、昭和31年の水準に近いまでに回復したことになる。昭和40年の急激な出生増は、ここ5年来の増加傾向に加えて、41年の「ひのえうま」を避ける産み急ぎの影響と見ることができよう。一方5.97%という死亡率は、最低であった39年よりやや増加したとは言え、引き続いての5%台できわめて低い死亡率を保っている。

次に安定人口であるが(第3表)、出生率は他の出生指標と同様に、昭和36年から37年にかけて初めて、若干ではあるが回復して以来年々上昇してきたが、昭和40年に至って13.70%という(対前年増加率6.04%)、これまた昭和31年~32年の水準にまで回復した。これに対し、安定人口死亡率は前年よりさらに低い13.59%というここ10年間に於ける最低率を示した。これは前に見た普通率、標準化率の場合と異なった現象であって、見かけの上では上昇であるが、真の死亡率は昭和39年より7.05%の減少なのである。安定人口自然増加率は昭和31年以降マイナスを示し、36年が最も低くて-3.74%を記録したが、それを底に以後上向の気運を示してきていた。それが40年に至り、出生率の上昇、死亡率の低下傾向が遂に出生超過をきたして、ほぼ10年ぶりにプラスの増加率を示すに至った。これは、「ひのえうま」が招いた出生増によるとしても画期的なことと言える。なお、安定人口増加率と近似的関係にある純再生産率の傾向(第2表)が、これと一致することももちろんである。

女子の人口再生産率も、いずれも昭和39年より40年の間にかなりの上昇を示した。これにより、粗再生産率(2.13)および総再生産率(1.04)は昭和31~33年の水準に、また純再生産率(1.00)は30~31年の水準に回復して、10年ぶりに再生産は赤字から脱したわけである。10年前の純再生産率と総再生産率との比(第2表における再生産残存率)は90%を少し越える程度であった。最近では約5%改善されて96%となっているが、ここ4、5年横ばい傾向にあり、これは死亡率がほぼその低下限界に近いまでに改善されているための現われと言えよう。

安定人口年齢構造係数は戦後一貫して高齢化が進行してきたが(実際人口でも同様)、昭和37年を境として、幼少年人口は増加、老年人口は逆に減少傾向を示し、40年においても0~14歳人口は前年より4.90%の増加、65歳以上人口は3.18%の減少率を示した。これは安定人口出生率の増加の影響によると思われるが、実際人口係数の幼少年人口減少、生産年齢・老年人口の増加とは異なった傾向である。なお、安定人口の15~64歳人口は0.64%の減少で、傾向としては不安定である(第3表)。

第1表 年次別標準化人口動態率：大正14年~昭和40年(付 普通人口動態率)

Table 1. Standardized and Crude Vital Rates: 1925~1965

年次 Year	標準化人口動態率(‰) Standardized vital rates			昭和5年を基準とした指数 Index of stand. v.r. (1930=100)			〔参考〕普通人口動態率(‰) Crude vital rates		
	出生率 Birth rate	死亡率 Death rate	自然増加率 Natural inc. rate	出生率 Birth rate	死亡率 Death rate	自然増加率 Natural inc. rate	出生率 Birth rate	死亡率 Death rate	自然増加率 Natural inc. rate
大正14 1925	35.27	20.24	15.03	109.0	111.4	106.0	34.92	20.27	14.65
昭和 5 1930	32.35	18.17	14.18	100.0	100.0	100.0	32.35	18.17	14.18
12 1937	29.77	17.35	12.42	92.0	95.5	87.6	30.88	17.10	13.78
15 1940	27.74	16.80	10.94	85.7	92.5	77.2	28.95	16.24	12.71
22 1947	30.69	15.32	15.37	94.9	84.3	108.4	34.30	14.57	19.73
25 1950	25.33	10.97	14.36	78.3	60.4	101.3	28.10	10.88	17.22
30 1955	16.79	7.67	9.12	51.9	42.2	64.3	19.39	7.77	11.62
31 1956	15.83	7.86	7.97	48.9	43.3	56.2	18.45	8.03	10.42
32 1957	14.61	8.01	6.60	45.2	44.1	46.5	17.20	8.26	8.94
33 1958	15.19	7.14	8.05	47.0	39.3	56.8	17.97	7.44	10.53
34 1959	14.82	7.02	7.80	45.8	38.6	55.0	17.49	7.42	10.07
35 1960	14.62	6.99	7.63	45.2	38.5	53.8	17.19	7.56	9.63
36 1961	14.24	6.71	7.53	44.0	36.9	53.1	16.86	7.38	9.48
37 1962	14.26	6.64	7.62	44.1	36.5	53.7	17.01	7.46	9.55
38 1963	14.45	6.10	8.35	44.7	33.6	58.9	17.26	6.98	10.28
39 1964	14.80	5.91	8.89	45.7	32.5	62.7	17.66	6.93	10.73
40 1965	15.65	5.97	9.68	48.4	32.9	68.3	18.56	7.13	11.43

昭和5年全国人口を標準人口に採り、Newsholme-Stevensonの任意標準人口標準化法の直接法による。国勢調査人口およびそれに基づく推計人口、人口動態統計による出生・死亡数によって算出(計算に用いた資料は後掲)。昭和15年以前は旧沖繩県を含んでいる。

標準化についての詳細は、「人口問題研究所研究資料」の第155号を参照されたい。

第2表 年次別女子の人口再生産率：大正14年～昭和40年

Table 2. Reproduction Rates for Female: 1925~1965

年次 Year	粗再生産率 Total fertility rate (1)	総再生産率 Gross reproduction rate (2)	純再生産率 Net reproduction rate (3)	再生産 残存率 (3)/(2) (4)	静止粗再 生産率 (1)/(3) (5)	(1)-(5) (6)	昭和5年を基準とした指数 Index of rep. rates(1930=100)		
							粗再生産率 Total fertility (7)	総再生産率 Gross rep. rate (8)	純再生産率 Net rep. rate (9)
大正14 1925	5.11	2.51	1.56	0.62	3.28	1.83	108.5	109.1	102.6
昭和 5 1930	4.71	2.30	1.52	0.66	3.10	1.61	100.0	100.0	100.0
12 1937	4.36	2.13	1.49	0.70	2.93	1.43	92.6	92.6	98.0
15 1940	4.11	2.01	1.44	0.72	2.85	1.26	87.3	87.4	94.7
22 1947	4.52	2.20	1.67	0.76	2.71	1.81	96.0	95.7	109.9
25 1950	3.63	1.76	1.53	0.87	2.37	1.26	77.1	76.5	100.7
30 1955	2.36	1.15	1.05	0.91	2.25	0.11	50.1	50.0	69.1
31 1956	2.21	1.07	0.99	0.93	2.23	-0.02	46.9	46.5	65.1
32 1957	2.03	0.99	0.91	0.92	2.23	-0.20	43.1	43.0	59.9
33 1958	2.10	1.02	0.96	0.94	2.19	-0.09	44.6	44.3	63.2
34 1959	2.03	0.99	0.92	0.93	2.21	-0.18	43.1	43.0	60.5
35 1960	1.99	0.97	0.92	0.95	2.16	-0.17	42.3	42.2	60.5
36 1961	1.95	0.95	0.90	0.95	2.17	-0.22	41.4	41.3	59.2
37 1962	1.97	0.95	0.91	0.96	2.16	-0.19	41.8	41.3	59.9
38 1963	1.99	0.97	0.93	0.96	2.14	-0.15	42.3	42.2	61.2
39 1964	2.04	0.99	0.95	0.96	2.15	-0.11	43.3	43.0	62.5
40 1965	2.13	1.04	1.00	0.96	2.13	0.00	45.2	45.2	65.8

国勢調査人口およびそれに基づく推計人口，人口動態統計による出生数ならびに生命表の生残数 $(L(x))$ によって算出（計算に用いた資料は後掲）。昭和15年以前は旧沖縄県を含む。
人口再生産率についての詳細は，「人口問題研究所研究資料」の第157号を参照されたい。

第3表 年次別女子の安定人口動態率および年齢構造係数：大正14年～昭和40年
(付 女子の実際人口年齢構造係数)

Table 3. Intrinsic Vital Rates and Age Composition of Stable and Actual Populations for Female: 1925~1965

年次 Year	安定人口動態率 Intrinsic vital rates (%)			安定人口年齢構造係数 Age composition of stable population (%)			[参考] 実際人口年齢構造係数 Age composition of actual population (%)		
	増加率 Increase rate	出生率 Birth rate	死亡率 Death rate	0~14	15~64	65 ≤	0~14	15~64	65 ≤
大正14 1925	15.19	35.95	20.76	37.57	57.77	4.66	36.54	57.73	5.73
昭和 5 1930	14.19	32.87	18.68	35.79	58.83	5.38	36.45	58.11	5.44
12 1937	13.40	30.37	16.97	34.57	59.49	5.94	36.48	58.14	5.38
15 1940	11.99	28.60	16.61	33.59	60.36	6.05	35.71	58.84	5.45
22 1947	17.14	31.30	14.16	35.92	58.69	5.39	34.10	60.46	5.44
25 1950	14.56	25.62	11.06	31.90	60.71	7.39	34.17	60.21	5.62
30 1955	1.72	15.72	14.00	22.08	64.10	13.82	32.19	61.82	5.99
31 1956	— 0.42	14.67	15.09	20.93	65.07	14.00	31.42	62.55	6.03
32 1957	— 3.14	13.02	16.16	19.05	64.85	16.10	30.59	63.33	6.08
33 1958	— 1.63	13.51	15.14	19.66	64.31	16.03	29.85	63.99	6.16
34 1959	— 2.80	12.89	15.69	18.95	64.47	16.58	29.10	64.64	6.26
35 1960	— 3.18	12.59	15.77	18.64	64.45	16.91	28.88	64.75	6.37
36 1961	— 3.74	12.23	15.97	18.27	64.65	17.08	28.62	64.91	6.48
37 1962	— 3.33	12.24	15.57	18.27	64.14	17.59	27.54	65.89	6.57
38 1963	— 2.54	12.49	15.03	18.62	63.96	17.42	26.40	66.89	6.71
39 1964	— 1.70	12.92	14.62	19.17	64.14	16.69	25.29	67.87	6.84
40 1965	0.11	13.70	13.59	20.11	63.73	16.16	24.69	68.40	6.92

国勢調査人口およびそれに基づく推計人口，人口動態統計による出生数ならびに生命表の生残数 $(L(x))$ によって算出（計算に用いた資料は後掲）。昭和15年以前は旧沖縄県を含む。
安定人口についての詳細は，「人口問題研究所研究資料」の第161号を参照されたい。

第4表 女子の年齢（各歳・5歳階級）別人口，出生数，特殊出生率および
生残数ならびに人口再生産率：昭和40年

Table 4. Population, Number of Births and Specific Fertility Rates by
Age, and Reproduction Rates for Female: 1965

年 齢 x	女子人口 $P_F(x)$	出 生 数			特殊出生率		生 残 数 (静止人口) $L_F(x)$	$Ff_F(x) \times$ $\frac{L_F(x)}{100,000}$
		総 数 $B_S(x)$	男 $B_M(x)$	女 $B_F(x)$	$B_S(x)/P_F(x)$ $f_F(x)$	$B_F(x)/P_F(x)$ $Ff_F(x)$		
15	1,097,016	49	15	34	0.00004	0.00003	97,619	0.00003
16	1,213,802	369	199	170	0.00030	0.00014	97,580	0.00014
17	1,199,896	1,983	1,051	932	0.00165	0.00078	97,537	0.00076
18	1,137,233	5,625	2,857	2,768	0.00495	0.00243	97,489	0.00237
19	725,600	9,686	4,968	4,718	0.01335	0.00650	97,437	0.00633
20	781,154	25,224	12,836	12,388	0.03229	0.01586	97,380	0.01544
21	953,606	56,492	28,956	27,536	0.05924	0.02888	97,318	0.02811
22	929,169	94,928	48,903	46,025	0.10216	0.04953	97,250	0.04817
23	960,613	151,097	77,199	73,898	0.15729	0.07693	97,176	0.07476
24	947,850	185,911	95,365	90,546	0.19614	0.09553	97,096	0.09276
25	872,150	188,681	96,697	91,984	0.21634	0.10547	97,011	0.10232
26	767,934	175,136	89,729	85,407	0.22806	0.11122	96,921	0.10780
27	832,674	183,189	94,198	88,991	0.22000	0.10687	96,825	0.10348
28	862,429	164,373	84,480	79,893	0.19059	0.09264	96,724	0.08961
29	871,614	143,034	73,193	69,841	0.16410	0.08013	96,619	0.07742
30	839,450	112,807	57,959	54,848	0.13438	0.06534	96,509	0.06306
31	815,832	86,212	44,247	41,965	0.10567	0.05144	96,395	0.04959
32	831,390	68,643	35,355	33,288	0.08256	0.04004	96,276	0.03855
33	817,659	50,536	25,902	24,634	0.06181	0.03013	96,152	0.02897
34	805,745	37,077	19,016	18,061	0.04602	0.02242	96,022	0.02153
35	773,596	25,954	13,311	12,643	0.03355	0.01634	95,885	0.01567
36	765,423	18,722	9,552	9,170	0.02446	0.01198	95,741	0.01147
37	748,908	12,802	6,542	6,260	0.01709	0.00836	95,589	0.00799
38	733,997	8,787	4,421	4,366	0.01197	0.00595	95,428	0.00568
39	729,106	6,090	3,149	2,941	0.00835	0.00403	95,255	0.00384
40	702,623	4,035	2,035	2,000	0.00574	0.00285	95,071	0.00271
41	662,581	2,669	1,375	1,294	0.00403	0.00195	94,872	0.00185
42	646,537	1,662	833	829	0.00257	0.00128	94,658	0.00121
43	626,432	931	492	439	0.00149	0.00070	94,426	0.00066
44	593,563	531	288	243	0.00089	0.00041	94,177	0.00039
45	623,720	245	131	114	0.00039	0.00018	93,907	0.00017
46	506,824	102	45	57	0.00020	0.00011	93,616	0.00010
47	518,119	58	37	21	0.00011	0.00004	93,300	0.00004
48	520,561	33	16	17	0.00006	0.00003	92,958	0.00003
49	527,993	24	14	10	0.00005	0.00002	92,587	0.00002
Σ	27,942,799	1,823,697	935,366	888,331	2.12789	1.03654	—	1.00303
15 ~ 19	5,373,547	17,712	9,090	8,622	0.00330	0.00160	97,537	0.00156
20 ~ 24	4,572,392	513,652	263,259	250,393	0.11234	0.05476	97,250	0.05325
25 ~ 29	4,206,801	854,413	438,297	416,116	0.20310	0.09892	96,825	0.09578
30 ~ 34	4,110,076	355,275	182,479	172,796	0.08644	0.04204	96,276	0.04047
35 ~ 39	3,751,030	72,355	36,975	35,380	0.01929	0.00943	95,589	0.00901
40 ~ 44	3,231,736	9,828	5,023	4,805	0.00304	0.00149	94,658	0.00141
45 ~ 49	2,697,217	462	243	219	0.00017	0.00008	93,300	0.00007

本表の数値は，前掲第1～3表の各指標の昭和40年分算定に用いたものである。

女子人口は，総理府統計局の昭和40年国勢調査報告による40年10月1日現在人口。出生数は，厚生省大臣官房統計調査部の昭和40年人口動態統計。生残数は，人口問題研究所の第19回簡速静止人口表（昭和40年4月～41年3月）による $L(x)$ ，ただし， $l(0)=10$ 万なので $L(x)/100,000$ を採っている。なお本表の出生数は，母の年齢が15歳未満，50歳以上および不詳の出生数（総数27，男15，女12）につき，15～49歳の既知の年齢別数値の割合に応じて案分補正したものである。

$f_F(x)$ の計は粗再生産率， $Ff_F(x)$ の計は総再生産率， $Ff_F(x) \cdot L_F(x)$ の計は純再生産率である。

第5表 男女、年齢（5歳階級）別人口、死亡数および特殊死亡率：昭和40年
Table 5. Population, Number of Deaths, and Specific Mortality Rates by 5-Year Age Groups and Sexes: 1965

年齢階級 <i>x</i>	総数 Both sexes			男 Male			女 Female		
	人口 $P_S(x)$	死亡数 $D_S(x)$	特殊死亡率 $m_S(x)$	人口 $P_M(x)$	死亡数 $D_M(x)$	特殊死亡率 $m_M(x)$	人口 $P_F(x)$	死亡数 $D_F(x)$	特殊死亡率 $m_F(x)$
総数 Total	98,274,961	700,438	0.00713	48,244,445	378,716	0.00785	50,030,516	321,722	0.00643
0~4	8,133,483	42,573	0.00523	4,149,581	24,384	0.00588	3,983,902	18,189	0.00457
5~9	7,849,292	4,533	0.00058	3,995,011	2,825	0.00071	3,854,281	1,708	0.00044
10~14	9,183,407	3,621	0.00039	4,670,170	2,260	0.00048	4,513,237	1,361	0.00030
15~19	10,851,888	7,374	0.00068	5,478,341	5,026	0.00092	5,373,547	2,348	0.00044
20~24	9,068,689	10,401	0.00115	4,496,297	6,708	0.00149	4,572,392	3,693	0.00081
25~29	8,363,829	11,168	0.00134	4,157,028	6,744	0.00162	4,206,801	4,424	0.00105
30~34	8,257,330	13,449	0.00163	4,147,254	8,287	0.00200	4,110,076	5,162	0.00126
35~39	7,498,539	16,100	0.00215	3,747,509	9,748	0.00260	3,751,030	6,352	0.00169
40~44	5,961,402	17,456	0.00293	2,729,666	9,828	0.00360	3,231,736	7,628	0.00236
45~49	4,921,811	22,543	0.00458	2,224,594	12,611	0.00567	2,697,217	9,932	0.00368
50~54	4,657,998	33,233	0.00713	2,172,903	19,394	0.00893	2,485,095	13,839	0.00557
55~59	4,002,009	45,942	0.01148	1,930,469	28,289	0.01465	2,071,540	17,653	0.00852
60~64	3,344,459	64,304	0.01923	1,625,089	40,359	0.02483	1,719,370	23,945	0.01393
65~69	2,562,311	81,004	0.03161	1,218,867	49,035	0.04023	1,343,444	31,969	0.02380
70~74	1,744,561	92,419	0.05298	788,994	52,402	0.06642	955,567	40,017	0.04188
75~79	1,095,914	97,837	0.08927	451,871	48,813	0.10802	644,043	49,024	0.07612
80~	778,039	136,481	0.17542	260,801	52,003	0.19940	517,238	84,478	0.16333

本表の数値は、前掲第1表の標準化死亡率の昭和40年分算定に用いたものである。
人口は、総理府統計局の昭和40年国勢調査報告による40年10月1日現在人口。死亡数は、厚生省大臣官房統計調査部の昭和40年人口動態統計による。なお本表の死亡数は、年齢不詳（総数24、男19、女5）分を既知の男女、年齢別数値の割合に応じて案分補正したものである。

第6表 女子の安定人口増加率、出生率および死亡率ならびに平均世代間隔：
昭和40年（付 計算過程の主要指標）
Table 6. Intrinsic Vital Rates and Average Length of Generation of Stable Population for Female: 1965

指標 Items	算定数値 Results	指標 Items	算定数値 Results
安定人口増加率 (Intrinsic increase rate) $r = \frac{1}{\beta}(-\alpha + \sqrt{\alpha^2 + 2\beta \log_e R_0})$	0.0001093	$L_0 = \sum_{x=0}^{\omega} L_F(x)$	73.30222
安定人口出生率 (Intrinsic birth rate) $b = \frac{1}{L_0} \int A'dr$	0.0136999	$L_1 = \sum_{x=0}^{\omega} (x+0.5)L_F(x)$	2,832.32957
安定人口死亡率 (Intrinsic death rate) $d = b - r$	0.0135906	$L_2 = \sum_{x=0}^{\omega} (x+0.5)^2 L_F(x)$	149,081.03322
$R_0 = \sum_{x=15}^{49} L_F(x) F F(x) \dots$ 純再生産率	1.00303	$L_3 = \sum_{x=0}^{\omega} (x+0.5)^3 L_F(x)$	8,971,115.16532
$R_1 = \sum_{x=15}^{49} (x+0.5) L_F(x) F F(x)$	27.76413	$u = \frac{L_1}{L_0} \dots$ 静止人口平均年齢	38.63907
$R_2 = \sum_{x=15}^{49} (x+0.5)^2 L_F(x) F F(x)$	784.99834	$v = u^2 - \frac{L_2}{L_0}$	-540.80841
$\alpha = \frac{R_1}{R_0} \dots$ 静止人口平均世代間隔	27.68025	$w = u^3 - \frac{2}{3} \cdot u \cdot \frac{L_2}{L_0} + \frac{1}{2} \cdot \frac{L_3}{L_0}$	1,004.52236
$\beta = \alpha^2 - \frac{R_2}{R_0}$	-16.43052	$\int A'dr = ur + \frac{1}{2}vr^2 + \frac{1}{3}wr^3$	0.00422
		安定人口平均世代間隔 (Average length of generation of stable population) $\bar{T} = \alpha + \frac{1}{2}\beta r$	27.67936

計算に用いた資料は後掲。各指標の性質等については、「人口問題研究所研究資料」第161号を参照されたい。

第7表 女子の安定人口年齢（各歳・5歳階級別）構造係数：昭和40年
Table 7. Age Composition of Stable Population for Female: 1965

年 齢 x	構造係数 $C_F(x)$	年 齢 x	構造係数 $C_F(x)$	年 齢 x	構造係数 $C_F(x)$	年 齢 x	構造係数 $C_F(x)$	年 齢 x	構造係数 $C_F(x)$
0	0.013534	25	0.013253	50	0.012560	75	0.007645	0~4	0.067311
1	0.013469	26	0.013240	51	0.012499	76	0.007190	5~9	0.066985
2	0.013450	27	0.013225	52	0.012433	77	0.006714	10~14	0.066842
3	0.013435	28	0.013210	53	0.012361	78	0.006220	15~19	0.066681
4	0.013423	29	0.013194	54	0.012284	79	0.005710	20~24	0.066447
5	0.013412	30	0.013178	55	0.012202	80	0.005190	25~29	0.066122
6	0.013403	31	0.013161	56	0.012112	81	0.004664	30~34	0.065712
7	0.013396	32	0.013143	57	0.012015	82	0.004138	35~39	0.065204
8	0.013390	33	0.013125	58	0.011910	83	0.003619	40~44	0.064528
9	0.013384	34	0.013105	59	0.011796	84	0.003115	45~49	0.063561
10	0.013379	35	0.013085	60	0.011672	85	0.002633	50~54	0.062137
11	0.013374	36	0.013064	61	0.011538	86	0.002179	55~59	0.060035
12	0.013369	37	0.013042	62	0.011391	87	0.001763	60~64	0.056881
13	0.013363	38	0.013019	63	0.011230	88	0.001389	65~69	0.051887
14	0.013357	39	0.012994	64	0.011050	89	0.001060	70~74	0.044193
15	0.013351	40	0.012967	65	0.010853	90	0.000782	75~79	0.033479
16	0.013344	41	0.012938	66	0.010637	91	0.000554	80~84	0.020726
17	0.013337	42	0.012908	67	0.010399	92	0.000375	85~89	0.009024
18	0.013329	43	0.012875	68	0.010140	93	0.000240	90~94	0.002095
19	0.013320	44	0.012840	69	0.009858	94	0.000144	95~99	0.000149
20	0.013311	45	0.012801	70	0.009551	95	0.000080		
21	0.013301	46	0.012760	71	0.009220	96	0.000041	100	0.000001
22	0.013290	47	0.012716	72	0.008864	97	0.000019		
23	0.013279	48	0.012668	73	0.008482	98	0.000007	Σ	1.000000
24	0.013266	49	0.012616	74	0.008076	99	0.000002		

計算に用いた資料は後掲。計算方法その他詳細については、「人口問題研究所研究資料」第161号を参照されたい。

計算に使用した資料

わが国人口再生産に関する主要指標の算定年次は、計算のための基礎資料の有無によって制約されているため、次のようになっている。

標準化人口動態率

出生率：大正14年，昭和5年，昭和12年～15年，昭和22年以降

死亡率：大正9年～昭和15年，昭和22年以降

自然増加率：大正14年，昭和5年，昭和12年～15年，昭和22年以降

人口再生産率（女子）

粗再生産率：大正14年，昭和5年，昭和12年～15年，昭和22年以降

総再生産率：大正14年，昭和5年，昭和12年～15年，昭和22年以降

純再生産率：大正14年，昭和5年，昭和12年，昭和15年，昭和22年以降

安定人口（女子）

各指標：大正14年，昭和5年，昭和12年，昭和15年，昭和22年以降

これらの指標の算出作業において必要な基礎数値は、各年の人口，出生・死亡数および生残数（生命表の静止人口 $L(x)$ ）で、これは純再生産率および安定人口諸指標の計算にのみ用いる）であるが、いずれも年齢別の数値がある。それらは、それぞれ次の資料によっている（本統計表に掲げた年次分の資料のみ）。なお、標準化人口動態率は5歳階級，人口再生産率および安定人口諸指標は各歳別によって算出している。

人口：大正14年，昭和5年，15年，22年，25年，30年，35年および40年は、各年10月1日現在の各回

『国勢調査報告』。昭和12年，31年～34年，および36年～39年は総理府統計局の推計人口¹⁾。

出生数：大正14年および昭和5年は人口動態特別集計結果報告書²⁾。昭和12年および15年は旧内閣統計局，昭和22年以降は厚生省大臣官房統計調査部の『人口動態統計』各年分。

死亡数：昭和15年以前は内閣統計局，22年以後は厚生省大臣官房統計調査部の『人口動態統計』各年分。

生残数：大正14年は第4回，昭和5年は第5回，同12年は第6回，22年は第8回，25年は第9回〔修正表〕，30年は第10回，35年は第11回のそれぞれ『完全生命表』（第6回以前は内閣統計局，第8回以後は厚生省大臣官房統計調査部の作成）。昭和15年は第7回生命表が準備されたが作成されず，九州大学の水島治夫教授を中心としてその代償としての生命表が作成，発表されているのでそれを用いた³⁾。昭和31年～34年，および36年以降は人口問題研究所の各回『簡速静止人口表（生命表）』（各年4月～翌年3月）。

以上の各生命表による $L(x)$ ，または $L(x)$ の表示のない場合は， $L(x) \doteq l(x) + l(x+1)/2$ の近似計算によって求めたものを用いた。

Standardized Vital Rates, Reproduction Rates, Intrinsic Vital Rates and Stable Populations for All Japan: 1965

Kiichi YAMAGUCHI

The results of the calculations of the standardized vital rates (1930 census population as the standard population), population reproduction rates of females and several indices of the stable population until 1964 have already been completed and reported by the author in Nos. 94, 96 of *The Journal of Population Problems* and other publications. In this number, the completed result of the above for 1965 are to be reported.

According to the calculation results for 1965, in every index, birth rate became higher and death rate lower or stagnated than previous years, elevating, accordingly, the increase rates and reproduction rates.

- 1) 昭和12年は，総理府統計局，『大正9年～昭和15年および昭和22年～25年全国年令別人口の推計』（人口推計資料1956-1），昭和31年3月。昭和31年～34年および36年～39年は，同じく総理府統計局の各年10月1日現在『全国年令別人口の推計』（人口推計資料シリーズ）による。
- 2) 内閣統計局編纂，『大正十四年 父母ノ年齢別出生統計』，昭和2年9月。
内閣統計局，『昭和五年 父母ノ年齢別出生及死産統計』，昭和10年3月。
- 3) 原 廣之，「昭和14—16年度の生命表（女）」『民族衛生』第17巻第3，4号，昭和25年10月。